

めざす人材像と学び方を 高校生に伝える工夫を総動員

関西国際大学

建学の精神に掲げた人材育成方針をいかにして実現するか——。大学ポートレートで、特色や取り組みを通じて一貫性のある説明をし、私立大学ならではの独自性をアピールしているのが関西国際大学だ。学長のリーダーシップの下、私学版独自の構造を的確につかみ、それを最大限に活用した情報発信を紹介する。

内容を絞り込み メッセージ性を高める

関西国際大学の大学ポートレートからは、「体験的な学習により課題解決力を養い、国際社会の一員として活躍する人材を送り出す」という姿勢が随所から伝わる。

「本学の特色」のページは、それが特に鮮明だ(図表)。建学の精神に謳われた「知識の修得にとどまらない」「世界で活躍できる」「問題解決ができる人間」といった方針が、「特色」「本学の目的」の内容全体に貫かれている。

濱名篤理事長・学長は、「3つのポリシーや教育施策は、もともと建学の精神との一貫性を意識して策定し、実践してきた。大学ポートレートは従来の受験情報サイトよりも、はっきりとそれを表現できる」と述べる。

特色の1つ目に「体験・実習から学ぶカリキュラム」を、2つ目に「自ら成長するための学修支援システム」を挙げた背景には、多様な入学者を受け入れ、成長させる大学というポジションを明らかにして、「ここで学びたいか、成長できるか」を高校生に判断させる

意図がある。それを明確にするために、「学びの質の向上」「汎用的な力の修得」といった特色の目的、「サービラーニング」や「インターンシップ」などの取り組みを、3つの特色の間で相互に重複させたという。

「特色を実現するための主な取組」の選定は、同大学が腐心した箇所だ。選定の基準は、特色の内容との一貫性に加えて、「高校生にとって身近かどうか」。特色と強く関連していても一般に普及していない名称の取り組みは高校生の興味を引かず、検索されることも少ないと考え、あえて入れなかった。

「特色を実現するための主な取組」以外の取り組みの内容も、3つの特色と結びついている。例えば「アクティブラーニング」は、一般的な授業形態を説明した後、「本学におけるアクティブラーニングは、学外での実習プログラム活動を通して学ぶ、さらに高次のアクティブラーニング(ハイ・インパクト・プラクティス)なのです」と、体験・実習重視の姿勢を強調。それが他大学のアクティブラーニングとの違いの説明にもなっている。

取り組みの内容に続く「目標」「検証と評価」に関しては、掲出すること

によって説得力が増すと判断した取り組みについて重点的に記入。高校生にとって意義が小さいと思われる場合は、あえて空欄にした。

読んでもらうための 「見た目」も重視

表現方法においても、高校生を意識した工夫がめだつ。文字でぎっしり埋まった項目は読む気を削ぐと考え、小見出し、改行、箇条書きを多用し、文章は短めに。小見出しにはスクールカラーの濃紺色を、注目させたい文言には赤文字や太字を使用し、一目で内容がつかめる体裁をめざした。

詳細については自学のウェブサイト誘導する方針のため、リンク先の指定も重要な意味を持つ。トップページや上位項目ではなく、関連した情報が掲載された場所に直接アクセスできるように指定した。

今後はポートレートとの連動を前提に、ウェブサイトの記事を見直す。文科省事業の選定など、教育的取り組みをアピールできる情報については、ウェブサイトのニュースからポートレートにリンクを張ることも、直ちにス

タートした。

学長が確認し 修正、再構成を指示

作業の推進役は、ポートレート作成のために設けた学長直属のプロジェクトが担った。他大学で広報を担当した経験を持つ橋本健夫副学長をリーダーに、8人の教職員を濱名学長が指名。大学の特色や事務関係の項目は橋本副学長と職員が、各学部の教育内容は教員が執筆した。「学部には、特に他大学と比較して何が違うのかを書くように指示した」と橋本副学長。

プロジェクトが全ての原稿を取りまとめ、推敲を終えた段階で、大学、学部の「特色」を中心に濱名学長が内容を確認。補足や項目の差し替えを指示した。基本的に複数の施策を組み合わせる1つの特色とする形式だが、大学と学部の間の一貫性を示すために、どの施策を記載し、どの施策の記載を見送るかに最も気を配ったという。

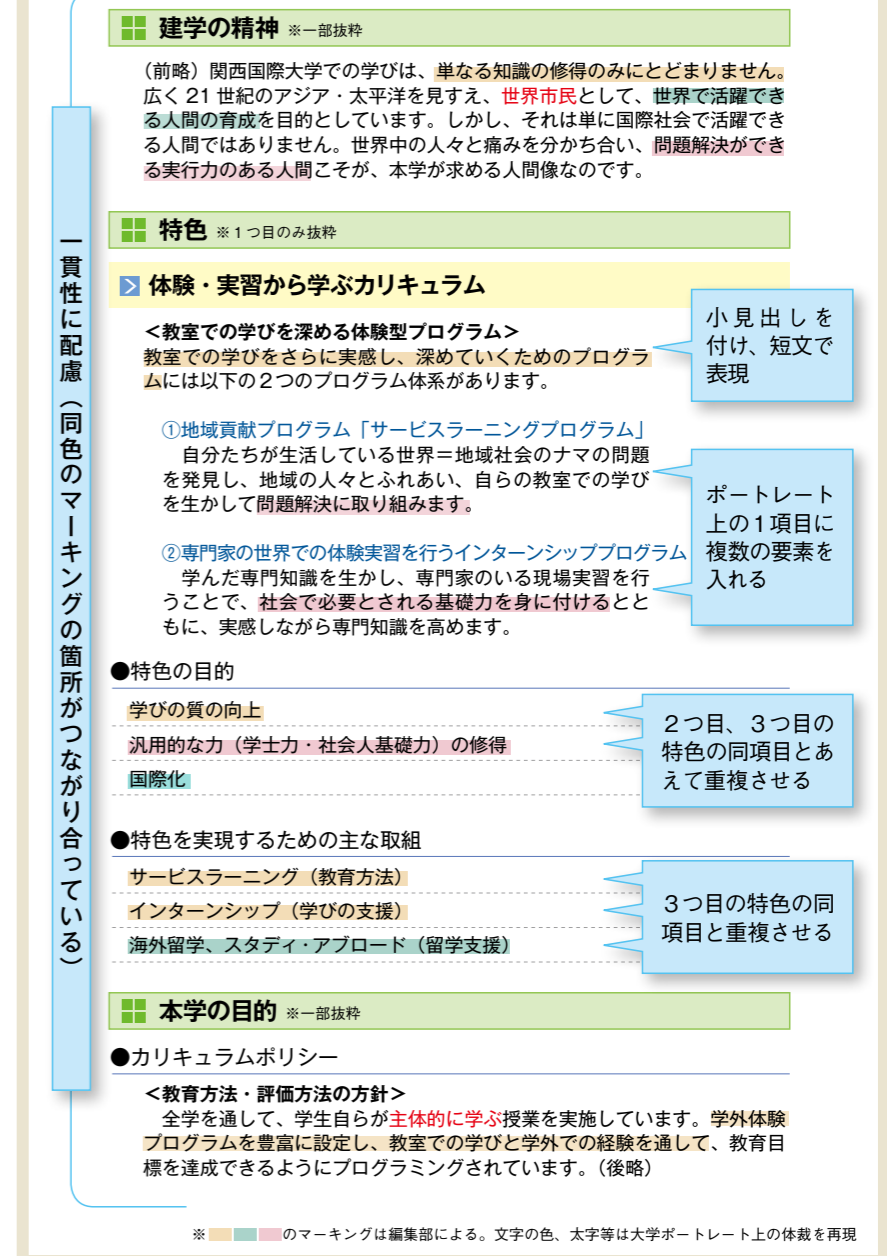
プロジェクトは濱名学長の指示を基に内容を再構成したうえで、文章表現の専門家であり、初年次教育を担当していた上村和美学長補佐・学習支援センター長にチェックを依頼。高校生にとってわかりやすい表現に修正して、原稿を完成させた。

入試改革との相乗効果を 狙える今こそ活用機会

ポートレート公開後、プロジェクトは解散。全学の情報を集めやすい部署であるという観点から、その後は学長室が管理を引き継いでいる。

濱名学長は大学ポートレートの公開

【図表】「本学の特色」ページにおける記述



が、中央教育審議会による高大接続改革の議論と同時期に行われたことに大きな意味を見込んでいる。「特色や取り組みを正確、かつ具体的に伝えることが目的の大学ポートレートには、入試難易度重視の大学選択基準を変える力がある。教科学力を基準とした

入試からの脱却が図られている今、われわれ中小私立大学がこれを活用しない手はない」と語り、発信内容で他の私立大学をリードしていく意気込みだ。今後は利用者の反応を基に、各項目の内容や表現方法が妥当かどうかを検証し、改善を進める。